

2021年5月14日

各位

会社名 株式会社タカラレーベン  
 代表者名 代表取締役 島田 和一  
 (コード番号 8897 東証第一部)  
 問合せ先 社長室 室長 鈴木 健介  
 (TEL 03-6551-2130)

## 特別損失の計上並びに通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2021年3月期決算において、ホテルアセットの用途変更（ホテルからレジデンスへ）などを行ったものに対し、減損処理による特別損失の計上をすることとなったため、2021年1月29日に公表いたしました2021年3月期の通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 減損処理による特別損失の計上について

新型コロナウイルスの収束の時期が不透明なため、ホテルアセットの保有方針の見直しを行い、一部で用途変更（ホテルからレジデンスへ）などを行った結果、固定資産の減損損失2,589百万円を計上することといたしました。

#### 2. 2021年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 141,900	百万円 7,300	百万円 6,200	百万円 4,100	円 銭 37.76
今回実績値 (B)	148,397	10,789	9,933	4,693	43.22
増減額 (B-A)	6,497	3,489	3,733	593	—
増減率 (%)	4.6	47.8	60.2	14.5	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	168,493	11,901	11,201	5,361	49.45

#### 3. 差異の理由

コア事業である新築分譲マンション事業において、計画を上回るペースで契約が進捗したため、通期引渡戸数が2,129戸と、計画を大きく上回りました。また、流動化事業における売却も順調に進捗

したため、営業利益で47.8%増、経常利益で60.2%増となりました。一方で、親会社株主に帰属する当期純利益は14.5%の増加となっており、営業利益及び経常利益の増加幅に比べ低くなった要因は、上記1に記載のとおり、ホテルアセットにおいて、用途変更（ホテルからレジデンスへ）などを行ったものに対し、2,589百万円の減損損失を計上したためであります。

以 上